



# あのとときの常呂・写真館

VOL 87

(1982年)

昭和57年11月17日

## 常呂町消防団第2分団（栄浦）詰所落成

▶常呂の消防団は、昭和22年7月22日の消防団設置条例施行を受け、8月7日、それまでの警防団を解散、消防団の結団式を挙行し、第1分団（常呂）、第2分団（栄浦）、第3分団（日吉）の体制で発足しました。

▶栄浦・鑑沸を範囲とする第2分団整備の歩みを簡略に年表にしました。

昭和28年	9月	第2分団、第3分団に小型ポンプ配置
36年	9月	第2分団、第3分団に配置した小型ポンプ更新
40年	9月	第2分団に積載車（小型動力ポンプ付き）配置
	10月	第2分団詰所建設移転
47年	1月	第2分団に積載車配置
57年11月		第2分団詰所移転新築 *常呂町字栄浦145番地1
平成元年	8月	常呂漁業協同組合から消防ポンプ自動車の寄贈を受け、第2分団に配置
24年12月		第2分団に消防ポンプ自動車配置

参考：『常呂消防団100年のあゆみ』





\*左：南側から見た詰所  
横に見える消防車両  
は、昭和47年に  
配置された積載車と  
思われます。

\*前ページとこのページの写  
真は、詰所新築時のもの





\*下：昭和40年建設の詰め所  
(昭和57年新築前の状態)



\*左：昭和40年配置の積載車



\*上：平成元年配置のポンプ車

\*左：平成24年配置のポンプ車

\*『常呂消防団100年のあゆみ』の中に、元第2分団員の思い出として、ワッカの火災消火活動が一番記憶に残っていると書いています。この時の火災は、昭和54年9月28日、第1湖口から2kmほど常呂寄りのワッカの国有保安林で野火が発生し、約1500㎡焼失した火災（北海道新聞）で、「…現場までの道は、消防車両が砂に埋まったり、周囲の木の枝が消防車両の進行の障害となり前進できなかったため、可搬式ポンプを団員の漁船で運び、火災現場に入って行きました、軽自動車に入った団員たちは途中で砂に埋まってしまい、みんなで力を合わせて押して車を出したことを覚えています」とその大変さを綴っています。